

きずな



令和8年9月発行／No.29

遠賀町ジモトコネクションズ(遠賀町)・・・P1.2
川口コミュニティ協議会(大川市)・・・P3.4
県庁お知らせ掲示板・・・P4



福岡県 市町村・地域振興部 市町村政策支援課 ☎092(643)3178

遠賀町ジモトコネクションズ(遠賀町)

ひまわりが咲かせる、遠賀の未来

おんがちょう

～遠賀町ジモトコネクションズ(遠賀町)～

福岡県北部の遠賀川下流に開けた遠賀平野の中心に位置する「遠賀町」は、豊かな自然あふれる田舎と都会が融合した町です。

古くから農業が行われ、農耕文化発祥地のひとつとして、遺跡や文化財も遺されています。

今回は、遠賀町愛の強いメンバーが集まった「遠賀町ジモトコネクションズ」を紹介します。



▲遠賀町ジモトコネクションズの皆さん

ジモトを想う絆が集結

遠賀町ジモトコネクションズは、町内でキッチンカーを営んでいた事業者（小島香名子さん）と、そのお客さん（泉谷美紀さん）という関係だった2人が遠賀町の60周年をお祝いしたいと意気投合し、町の補助金制度（みんなの夢応援プロジェクト）を活用して立ち上げた団体で、今年で活動3年目を迎えます。

「遠賀町が大好き！」「何か町を盛り上げる活動がしたい！」という想いでスタートし、2人で知り合いに声をかけ、同じ気持ちで集まったメンバーは現在12名。農家、庭師、福祉関係、スポーツ店など、多様なスキルを持つメンバーがそれぞれの得意分野を活かし、楽しく活動しています。

団体名には、遠賀町（ジモト）を想う人同士が繋がり、その輪を大切にしていきたいという意味が込められています。

ひまわりが紡ぐ思い出

活動の主軸は「ひまわりプロジェクト」。

SNSでボランティアを募り、4月から5月頃にひまわりの種を植えて育成します。参加していただいた方には、自宅でも楽しんでもらえるように鉢で持って帰ってもらうこともしています。

大切に育てたひまわりは、7月の第2日曜日に開催する「ひまわりフェスタ」で飾ってフォトスポットを作ります。イベントでは、プロのカメラマンによる写真撮影会が行われ、来場者に無料で写真をプレゼントしています。

「ひまわりと一緒に、写真撮影することを毎年楽しみにしてくれているご家族がいます。昨年は妊娠していたお母さんが、今年は産まれたお子様を連れて写真を撮りに来てくれていました。毎年家族の繋がりのひとつになっていることがとても嬉しく感じます。来場者は年々増加しており、イベントを通して幅広い世代の人と繋がれることやたくさんの笑顔を見ることができてスタッフ一同嬉しく思っています。」と、取材では素敵なエピソードも聞かせていただきました。



▲こどもたちもひまわりの種まきに参加してくれます



◀毎年来場して
くださるご家族

活動を継続するために

ひまわりプロジェクトの次のステップとして、ひまわりから採れる油を活用した事業も展開したいと考えていますが、生き物であるひまわりは、天候や害虫に左右され、必ずしも計画通りには咲きません。

また、イベント開催で公共施設を利用する際のコスト問題など、現実的な壁もあり、事業の継続には工夫と行政の協力が必要不可欠です。

遠賀の風景と、地元愛を次の世代へ

ひまわりフェスタでは出店もあり、町のお店を知ってもらう機会になっています。事業者も、イベントの日は予定を空けて参加して、盛り上げてくれます。

メンバーは「自分たちの活動を通して遠賀町を知り、良さを知ってもらえる機会になれば良いと思います。想いが一緒のメンバーと共に、今後も地域を盛り上げていきたいです。」と抱負を語ります。

活動に対する想いについて泉谷さんに尋ねると、「都会にも田舎にも良さがあり、慣れ親しんだ町を未来に残していきたいと強く思います。例えば、地元の花火大会で地域のみなさんが共に盛り上げて、『楽しかったね、遠賀町っていいところやね。』と話せるようにしたい。また、今のこどもたちが大きくなった時に『小さい頃からひまわりのお祭りがあったよね』と共通の思い出のひとつとして話せるように、この活動を未来に繋げていきたいです。」と笑顔で答えてくれました。

元気いっぱい大きく花を咲かせるひまわりのように、遠賀町ジモトコネクションズの皆さんの地元を愛するまっすぐな想いが、町の未来を輝かせます。



◀ひまわりフェスタを楽しむこどもたち

活動やイベント詳細は
Instagramをご覧ください！ ▶▶▶



“ コミセンの新展開 ”

地域の子どもを育てる ―地域学校協働活動事業とコラボ― ～川口コミュニティ協議会(大川市)～

福岡県の南西部に位置する大川市は、九州一の大河「筑後川」が流れる地域です。この筑後川と有明海の豊かな恵みによってもたらされる水稻、いちご、海苔などの農水産業も盛んです。

大川市川口校区で活動する「川口コミュニティ協議会」は、コミュニティセンターを拠点に未来を担う子どもたちの育成や地域活性化に取り組んでいます。多くの取組みのなかで、今回は「地域学校協働活動事業」についてご紹介します。



▲「コミセン寺子屋」で学習する子どもたち

活動に対する想い

5年目を迎える本事業は、協議会の山浦寛明会長や地域コーディネーター代表の梶島元さんが「子どもと地域の方々を繋げたい」「子どもや子育て世代を地域活動に参加させたい」という想いで始まりました。

30～40代の親世代に、地域に対する関心も持っていただくため、子どもとの触れ合いを増やそうと考え、川口校区を対象に「コミセン寺子屋」「ふれあい通学合宿」「子どもみらい食堂」など、元教職員の経験を活かし、梶島さんらが取り組んでいます。

目的を明確に事業実施

「コミセン寺子屋」は、地域コーディネーターや大学生ボランティアの支援のもと、夏休みに実施しています。宿題や自主学習などに取り組むことで『主体的な学習習慣・態度を育むこと』を目的にしています。当初は20人程度の参加でしたが、今では地元小学校の半数程度の児童が申し込んで参加しています。

梶島さんは「この事業で『自分で課題解決ができない』『家ではなかなか勉強が手につかない』『塾に行けない』という子どもたちにも、平等に学習機会を届けたい」と話します。

「通学合宿」は『子どもの自主性・協調性を育み、たくましく生きる力を身につけること』が狙いです。家庭にとっては親子関係を見直さきっかけになり、地域にとっては子どもとのコミュニケーションを深め、地域教育力のさらなる向上に繋がります。

また「子ども食堂」は、教育委員会や福祉事務所、社会福祉協議会と連携・協力して子どもたちのおなかを満たし、笑顔を増やし『地域の方々とのふれあいを通して地域に愛着心をもってもらいたい』と実施しています。



▲多くの子どもたちで賑わう「子ども食堂」

熱い想いが地域をひとつに

何事もやってみる、効果がなければ改善するというスタンスで行っています。「どのような効果を望んで事業をするのか」という趣旨を徹底させることが、地域の理解・賛同を得ることに繋がると思っています。今では学校の参画もあり、保護者も興味を持ち、事業に賛同してくれるようになりました。

この活動は、小学校の先生や大学生（教育実習生）、女性の会、老人会やヘルスメイトなど多くのボランティアが支えてくれます。

地域のコミュニケーションは、皆が集まり、話をする場が必要です。事業を実施することは、そのような場づくりにも効果があります。

地域の子どもは地域で育てる

コミュニティセンターは、今までお年寄りが集まる場所という感じでしたが、子どもが集まるようになり、賑わいがうまれました。今後も、勉強したり遊んだりできるような活気がある施設になっていけばと、協議会のメンバーは期待しています。

「ボランティアが好き」「周りのために何か役に立てれば」と笑う梶島さん。自身の仕事や協議会の運営、子どもたちの指導など多岐にわたる実務をこなしながら「忙しいという言葉は、心を亡ぼすと書くから使わないようにしている。毎日がとても充実している。」と話します。

また、「子どもには、地域と共に育ててほしい。地域みんなで育てていく。その光景を子どもたちに見せることが、地域への誇りをもつ子を育てる一番の教育になる。」と話します。

子どもは地域の宝。大好きな笑顔を守るため、これからも活動は続きます。



▲「通学合宿」では自分たちで食事のメニューや当番を決めます

県庁お知らせ掲示板

「みんなで防犯応援隊」に 取り組む企業・団体を募集中！！

「ながら防犯」をはじめてみませんか。

「ながら防犯」とは、日常生活の中に防犯の視点を取り入れて、周囲への目配り、こどもたちの見守りなどを行う活動です。地域の「異変」「危険」に気づいたら、最寄りの警察署、役所等に伝えましょう。緊急の事件・事故は110番通報をお願いします。

福岡県では、「ながら防犯活動」に取り組む企業・団体を「みんなで防犯応援隊」として登録し、組織を通じて多くの従業員やメンバーに周知啓発を図るとともに「ながら防犯」を実践していただくことで安全で安心して生活できるまちづくりを実現する「みんなで防犯応援隊運動」を推進しています。ご登録いただくと、県のホームページで参加企業・団体の紹介やご希望に応じてパトロールマグネットの提供を行っております。

このまちで、一緒に「ながら防犯」に取り組んでいきましょう。

▲福岡県生活安全課 092-643-3124

このまちで、いっしょに。
**みんな
防犯応援隊**

＼ 登録の詳細はこちら ＼



「みんなで防犯応援隊運動」の推進